

---

■■■ 福祉社会学会ニューズレター 第 25 号 ■■■  
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.25

<http://www.soc.nii.ac.jp/jwsa/>  
E-mail: ws@univcoop.or.jp

---

\*\*\*\*\* INDEX \*\*\*\*\*

- 事務局からのお知らせとお願い
- 大会報告
- 2011年度活動方針
- 第5期福祉社会学会役員等一覧
- 会長挨拶
- 学会賞受賞者・対象作品
- 第10回大会のお知らせ
- 総会報告
- 『福祉社会学研究』第8号発刊と第9号の投稿募集
- 理事会報告
- 新入会員など紹介

---

■事務局からのお知らせとお願い

---

- 6月大会総会にて新役員構成が承認されました。これを受けて、学会事務局所在地が以下のように変更になりましたのでご注意ください。  
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 総合人間科学部  
田淵六郎研究室 福祉社会学会事務局
- 住所変更やEmailのアドレスを変更した場合は、必ず大学生協・学会支援センター・福祉社会学会担当宛（学会のメールアドレス先）お知らせください。年度末に毎回十数通の不着が発生します。周辺でNewsletterを受信できていない方がいる場合は学会アドレスまで、ご連絡くださいますようお願いいたします。

---

■大会報告 第9回福祉社会学会大会は6月11・12日に開催され盛況のうちに終わりました。

---

東日本大震災の影響で、開催校を急遽引き受けましたが、武川会長、三重野事務局長、山田研究委員長および鎮目委員のご協力などにより、なんとか無事に大会を終えることができました。ただし、報告時間中にチャイムが鳴ったり、参加者が多く集まった部会の部屋が小さかったり、逆に参加者が少なかった部会の部屋が大きすぎたりと、報告者や参加者の方々には必ずしも満足いただけるものではなかったと思います。この点、お詫びいたします。

今回の大会参加者は計129名、内訳は一般98名、学生25名、首都大関係者(非会員)6名でした。事前振込された会員のうち、一般2名、学生1名の方が当日参加されませんでした(これらの人は参加者にはカウントしていません)。

なお、大会参加者の一般98名の内訳は会員86名、非会員12名、学生25名の内訳は会員14名、非

会員 11 名です。首都大関係者（非会員）6 名と合算すると、非会員の参加は 29 名、会員の参加はちょうど 100 名となります。

今大会は報告数も少なく、大会参加者が少ないのではという危惧がありましたが、多くの方にご参加いただき、結果として大会会計が赤字になることはありませんでした。今回黒字となった最大の理由は、非会員の当日参加が多かったことと、スタッフの人数を限定したことだと思います。部会にはとくに司会を補佐する学生を置かず、レジュメはすべてセルフサービスとさせていただきました。あまりこの点は問題なかったのではないかと思います。

また、福祉社会学会大会の案内を家族社会学会のメルマガなどで流してもらったのですが、そのせいか、非会員の家族研究者がかなり参加してくださいました。今後、大会情報を研究委員会もしくは事務局が中心になって積極的に流していただくと、開催校にはありがたいと思います。

首都大学のある南大沢にはとりたてて何もなく、とくに参加者の方を歓迎するような企画もたてなかったのですが、多くの方にご参加いただいたことに感謝申し上げます。来年度の東北大学での大会を楽しみにしております。

最後に、今回大会に多大なご協力をいただいた、岡部耕典（早稲田大学）、平野寛弥（埼玉県立大学）、岡部卓（首都大学東京）、中川薫（首都大学東京）の 4 先生、および諸業務をこなしてくれた 6 名の首都大学東京人文社会系の学部生諸君にお礼申し上げます。

（第 9 回大会実行委員長 稲葉昭英）

---

## ■2011 年度活動方針

大会 2 日目に開催された総会において 2011 年度活動方針が決まりました。

1. 福祉社会学会は、これまで同様に、福祉（welfare, well-being）や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として活動していきます。
2. 第 9 回大会を、2011 年 6 月中旬に首都大学東京で開催します。2012 年度開催の第 10 回大会についても、その準備を進めていきます。
3. 機関誌『福祉社会学研究』の第 9 号の年度内刊行をめざして、編集作業を進めていきます。
4. 大会に加えて、国際交流も含めた多様な研究交流活動に積極的に取り組みます。昨年度は研究会を年 2 回開催しましたが、今年度も、若手研究者支援活動など研究会活動の活性化をはかっていきます。
5. 日本学術会議の協力学術研究団体として、いっそう他の学術団体との連携につとめていきます。
6. 学会創設 10 周年記念事業の企画を進めていきます。
7. 学会誌の電子ジャーナル化に向けた検討を進めていきます。
8. Web や Email を活用し、事務の外部委託による効率化などによって、会員への情報・サービス提供の充実と事務作業の簡便化を進めるとともに、確実な情報提供につとめていきます。

---

## ■第 5 期福祉社会学会役員等一覧

総会で新役員や理事の選出・承認、委員等が報告されました。

会長	武川正吾（東京大学）
副会長	藤村正之（上智大学）
庶務理事	田淵六郎（上智大学）
研究委員長	天田城介（立命館大学）
編集委員長	安立清史（九州大学）

### 理事（50 音順）

安立清史（九州大学）                      天田城介（立命館大学）                      岡部耕典（早稲田大学）

株本千鶴（椙山女学園大学） 鎮目真人（立命館大学） 下夷美幸（東北大学）  
武川正吾（東京大学） 田淵六郎（上智大学） 中田知生（北星学園大学）  
野口裕二（東京学芸大学） 平岡公一（お茶の水女子大学） 藤村正之（上智大学）  
三重野卓（山梨大学） 三井さよ（法政大学）

#### 監査

三本松政之（立教大学） 高橋睦子（吉備国際大学）

#### 顧問

副田義也（金城学院大学） 庄司洋子（立教大学）

#### 研究委員会

委員長 天田城介（立命館大学）  
副委員長 三井さよ（法政大学）  
委員  
秋元美世（東洋大学） 樫田美雄（徳島大学） 上村泰裕（名古屋大学）  
菊地英明（武蔵大学） 佐藤恵（桜美林大学） 土屋葉（愛知大学）  
永井彰（東北大学） 中田知生（北星学園大学）

#### 編集委員会

委員長 安立清史（九州大学）  
副委員長 鎮目真人（立命館大学）  
委員  
岡部耕典（早稲田大学） 株本千鶴（椙山女学園大学） 神原文子（神戸学院大学）  
児島亜紀子（大阪府立大学） 鍋山祥子（山口大学） 仁平典宏（法政大学）

#### 社会学系コンソーシアム・評議員

下夷美幸（東北大学） 秋元美世（東洋大学）

#### 社会政策関連学会協議会・協議員

平岡公一（お茶の水女子大学） 金子雅彦（防衛医科大学校）

#### 学会賞選考委員会

委員長 野口裕二（東京学芸大学）

#### 十周年記念事業担当

委員長 三重野卓（山梨大学）  
委員  
稲葉昭英（首都大学東京） 神山英紀（帝京大学） 鍾家新（明治大学）  
高野和良（九州大学） 仁平典宏（法政大学） 船橋恵子（静岡大学）

#### 事務局

事務局長 田淵六郎（上智大学）

---

## ■会長挨拶

---

福祉社会学会の十周年に向けて

2011/07/10

福祉社会学会会長 武川正吾

東日本大震災において被災された方々に対しては衷心よりお見舞い申し上げます。

福祉社会学会は2003年6月に創設されて以来、8年の時日が経過いたしました。最初の6年は、副田義也会長と庄司洋子会長の下で会員数も着実に伸ばし、いわゆる連字符社会学の学会のなかでは押しも押されもせぬ存在となりました。2009年から2011年までの2年間、私はこうした諸先輩の成果を守ることを旨として会長職の仕事をつとめてきましたが、無事に任期を全うすることができました。これも理事や会員のみなさまのおかげです。改めてお礼申し上げます。

また、このたび2011年6月の第9回大会で会長に選出され、これから2年間、その任に就くことになりました。

2013年は福祉社会学会創立の10周年に当たります。福祉社会学の研究は量質ともに今後さらに発展していかなければならないと思いますが、それを可能とするためには学会の基盤を強化しなければなりません。10周年というのは、そのための節目として、非常に重要な年だと思います。大会・学会誌・研究会など通常の事業は当然のこととして、それだけにとどまらず、今期の理事会は、三重野卓理事を中心に、学会活動の基盤強化のための10周年事業の企画・実行していきたいと思っています。会員の皆様には、これまでと同様、学会活動の活性化にご協力いただければ幸いです。

2年後に、新しい世代に安心してバトンタッチできるように、また、新しい世代が存分に活動できるような土台作りに頑張っていきたいと思っていますので、よろしくご支援のほどお願いいたします。

---

## ■学会賞受賞者・対象作品

第1回福祉社会学会賞の受賞者・対象作品が決まりました。

---

### ●受賞者・対象作品

#### <学術賞>

三重野卓『福祉政策の社会学－共生システム論への計量分析－』（ミネルヴァ書房、2010）

#### <奨励賞>

##### 著書

菊池いづみ『家族介護への現金支払い－高齢者介護政策の転換をめぐる－』（公職研、2010）

前田拓也『介助現場の社会学－身体障害者の自立生活と介助者のリアリティー』（生活書院、2009）

##### 論文

石橋潔「表情を交わし合う相互行為－行為論およびケアとの関連において－」（『福祉社会学研究』7号掲載）

### ●選考理由（学会賞選考委員会）

#### <学術賞>

三重野卓『福祉政策の社会学－共生システム論への計量分析－』

「より良い社会」の構想と計量化という一貫した問題意識のもとに、福祉政策分野をめぐる価値・目標・関係性等の諸課題が包括的に検討されている優れた著作である。また、理論と方法論の双方において、先行研究や海外研究との比較のもとに福祉社会論の再構築に向けての展望も提示されている。これらの点から、福祉社会学の学術的発展に大きく寄与することが期待される。

#### <奨励賞>

菊池いづみ『家族介護への現金支払い－高齢者介護政策の転換をめぐる－』

介護保険の制度運用開始後は、重要でありながらも見過ごされがちであった「家族介護への現金支払

い」という課題を取り上げ、適切な先行研究レビューと詳細な実証研究を踏まえた手堅くも意欲的な著作である。当該分野の学術的研究に一石を投じることが期待される。

前田拓也『介助現場の社会学—身体障害者の自立生活と介助者のリアリティー』

障害者の自己決定や健常者のパターンリズムをめぐる議論を、介助現場という具体的文脈に着目しながら、社会学の相互作用論の視点に立脚して読み解いている。ジェンダー視点の付加は残された課題であるが、有意義な著作であり、介護学や看護学等への学際的な貢献も期待される。

石橋潔「表情を交わし合う相互行為—行為論およびケアとの関連において—」（『福祉社会学研究』7号掲載）  
対人サービスの分析の際に感情労働論を援用して、「表情を交わし合う相互行為」の意味づけを探った斬新な論文である。今後は、提示された理論的仮説を介護労働の現場に適用した結果を検証する等、さらなる研究の深化が求められる。

## ●選考過程

第1回目である今回の選考は、2009年1月から2010年12月の間に刊行された福祉社会学会に関連する研究業績を審査対象とした。

- ・ 2010年10月に推薦方法・用紙を学会ホームページへアップ。
- ・ 学会賞選考委員会からの推薦のお願い（学会ホームページやニューズレター等で複数回）。
- ・ 推薦受付先として大学生協学会支援センターに依頼。
- ・ 2011年1月5日から1月31日を受付期間として、会員からの自薦・他薦を含めた募集（合計5件の推薦）。
- ・ 編集委員会から書評掲載著書について、研究委員会から会員の出版著書についての情報提供。
- ・ 2010年秋以降から2011年5月まで選考委員の間でのメール上会議に加え、委員全員出席による対面での2回の選考委員会を開催（2011年3月4日、5月15日）。第1回選考委員会にて、候補作を絞った上で、担当を決めてそれぞれの著書・論文について精読。第2回選考委員会の場で委員全員の合意によって最終的に選考。
- ・ 奨励賞については、学会賞規程にもとづいて「原則として、修士課程入学後13年以内、もしくは博士課程入学後11年以内の会員」とするという資格要件の確認を行う一方、論文については、『福祉社会学研究』への投稿の奨励、及び、掲載論文の質の向上という理由から、今回に限り、「原則として」を使用。

---

## ■第10回大会のお知らせ

---

福祉社会学会第10回大会は、2012年に東北大学で開催されることになりました。詳細は決まり次第、ニューズレターおよびホームページでお知らせいたします。

---

## ■総会報告

---

大会初日の午前中に理事会が開催され、諸案件について承認・決定されました。これを受けて、2日目午後には総会が開催されました。総会には三重野卓庶務理事が開会を告げて始まり、武川正吾会長の挨拶、稲葉昭英大会実行委員長の挨拶の後、杉岡直人会員（北星学園大学）が議長に選出され、議長の進行のもと報告と審議が行われました。

## ●報告事項・承認事項

1. 事務局 三重野卓庶務理事・事務局長より以下が報告された。
  - (1) 11年6月12日時点における会員数は478名である。
  - (2) ニューズレターは第25号は7月刊行予定である。
  - (3) すでにニューズレター第23号において報告しているが、09年6月の大会総会において承認された会

費値上げについては、今年度はそれを再延期し会費を据置くこととする。

2. 研究委員会 山田昌弘研究委員長より、①今回の大会開催校の変更の経緯、②任期中における例会の地方開催および若手応援企画の定例化の推進等について報告がなされた。
  3. 編集委員会 稲葉昭英編集委員長より以下が報告された。
    - (1)『福祉社会学研究』8号が刊行された。投稿論文は7本、第一査読通過5本、3本が掲載可となった。
    - (2)8号の投稿論文の査読過程は試験的にすべて電子ファイルでやりとりをした。
    - (3)8号の発行が予定より遅れたことをお詫びする。
    - (4)7号・8号では会員の単著をできるだけ書評で取り上げるようにした。
    - (5)7号より視覚障がいに対応して電子ファイルでの頒布できるようにした。
    - (6)書評対象となる本を増やした。
    - (7)電子ジャーナル化に向けての検討・作業は次期の編集委員会に引き継がれることになる。
  4. 学会賞選考委員会 後藤澄江学会賞選考委員会委員長より、福祉社会学会第1回学会賞について選考経過の報告がなされた。
  5. 社会学系コンソーシアム 三重野卓庶務理事（平岡公一社会学系コンソーシアム評議員代理）より以下が報告された。
    - (1)2010年度事業報告と2011年度事業予定の概要。
    - (2)2011年1月に開催された公開シンポジウム「再論 日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」についての報告。
  6. 社会政策関連学会協議会 三重野卓社会政策関連学会協議会協議員より以下が報告された。
    - (1)2011年3月に開催された研究会「ジェンダーと社会政策—各学協会はどうとらえてきたか」について、本学会からは森川美絵会員が話題提供し、盛会のうちに終えた。
    - (2)2011年6月に日本学術会議との共催で、公開シンポジウム「社会サービスのユニバーサルデザイン—医療・介護・居住の新たな政策課題—」が開催の予定である。
  7. JST電子アーカイブ事業対象誌追加募集について 稲葉昭英編集委員長より、JST電子アーカイブ事業（既刊の『福祉社会学研究』の電子ジャーナル化）について説明がなされた後、JSTの募集に応募することが提案され、承認された。また、採択された場合の著作権行使に関わる作業について概要の説明がなされた。
  8. 2010年度決算案の提示・監査報告 白波瀬佐和子財務担当理事より2010年度決算案について説明がなされた。引き続き、染谷俣子監事より、染谷俣子・下平好博両監事による同案の監査報告が示され、承認された。
  9. 2011年度活動方針の提案 三重野卓庶務理事より「2011年度活動方針案」が提示され、承認された。
  10. 2011年度予算案の提示 白波瀬佐和子財務担当理事より2011年度予算案について説明がなされ、承認された。
  11. 新役員・理事会構成の提案ならびに新委員会構成の提案 三重野庶務理事より新役員について提案がなされ、選出・承認された。また、新理事（選出理事・推薦理事）と役割分担・委員会構成について報告がなされた。引き続き、新会長による挨拶が行われた。
  12. 第10回大会開催校の提案 三重野卓庶務理事より第10回大会開催校として東北大学が提案され、承認された。また、次期開催校の下夷美幸新理事より挨拶が行われた。
  13. 学会賞の授与式 武川正吾会長より受賞者に学術賞・奨励賞の授与が行われた。
- その後、三重野卓庶務理事が閉会を告げ、第9回大会総会はつつがなく終了しました。

●【第8号の刊行】 『福祉社会学研究』第8号(Journal of Welfare Sociology, No.8)が刊行されました (ISSN 1349-3337 ISBN978-4-7989-0067-4 C3036)。目次は以下のとおりです。

◆特集 小規模・高齢化集落の生活・福祉課題と持続可能性

特集解題：小規模・高齢化集落の生活・福祉課題と持続可能性—後藤澄江

過疎高齢社会における地域集団の現状と課題—高野和良

集落の維持・存続の分析枠組み—徳野貞雄

小規模・高齢化集落の高齢者と地域福祉—小磯明

福祉社会学からみた小規模・高齢化集落研究の課題—永井彰

◆自由論文

精神障害者と仕事—阿部俊彦

地域福祉実践の規模論的理解—山本馨

介護職の「専門性」に対する認識と評価—吉岡なみ子

◆会長講演

福祉社会学の想像力—武川正吾

◆書評

岡部耕典著『ポスト障害者自立支援法の福祉政策』 杉野昭博

神原文子著『子づれシングル』 下夷美幸

久保田裕之著『他人と暮らす若者たち』 木戸功

澁谷智子著『コーダの世界』 松木洋人

日米LTCI研究会編『在宅介護における高齢者と家族』 山口麻衣

副田義也編著『内務省の歴史社会学』 富江直子

園田恭一著『社会的健康論』 郡司篤晃

三重野卓著『福祉政策の社会学』 白波瀬佐和子

山口佐和子著『アメリカ発DV再発防止・予防プログラム』 高橋睦子

山田昌弘著『ワーキングプア時代』 堅田香緒里

若林敬子著『日本の人口問題と社会的現実』 杉岡直人

渡邊裕子著『社会福祉における介護時間の研究』 須田木綿子

●【原稿募集】 下記要領で、『福祉社会学研究』第9号の自由投稿論文を募集します。投稿資格は本会会員に限ります。2011年度の加入者については、6月の大会時までに入会済みであることが条件となります。

1. 論文の種類、自由投稿論文 福祉社会学研究の学術論文とします。なお、投稿資格は、本会会員に限ります。
2. 掲載の可否 レフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定します。
3. 締め切り 2011年9月11日(日) (必着)
4. 論文の分量 20,000字以内とします。スペースは字数に含めません。
5. 投稿規程、執筆要領 投稿規程、執筆要領は必ず、ウェブサイト等で確認してください。論文の分量が超過するなど、執筆要項が守られていない場合には、投稿論文を受け付けません。なお、本年も昨年と同様に試験的にオンラインのみでの投稿(投稿に必要なファイルをすべてメールで送る形式)も受け付けます。オンラインで投稿する場合には、ワードの文書ファイルの形式で、メールにて編集委員会事務局までお送りください。また、かならずファイルのバックアップを取った上で、必要に応じてパスワードを付けてください。その場合には別のメールにてパスワードをお知らせください。オンラインでの投稿の場合には、紙媒体の提出は一切必要ありません。

6. 自由投稿論文提出先, 問い合わせ先 投稿は郵送, オンラインにかかわらず受領後に受領通知をお知らせします. 受領通知の発行をもって, 論文の投稿が成立します. 投稿後1週間以上経過しても受領通知が到着しない場合には, 編集委員会事務局までお問い合わせください.

〒603-8577

京都市北区等持院北町56-1 立命館大学産業社会学部鎮目真人研究室内

福祉社会学会編集委員会事務局 (メール shizu\*fc.ritsume.ac.jp ←\*を@に変えてください)

---

## ■理事会報告

---

### ●11年度・第1回理事会の議事録(上記【総会報告】との重複部分など一部省略)

日時: 2011年6月11日(土) 10時30分~12時30分

場所: 首都大学東京 南大沢キャンパス 1-202 教室

出席者: 安立, 天田, 稲葉, 後藤, 岡部, 株本, 小林, 鎮目, 下夷, 鍾, 白波瀬, 高野, 武川, 田淵, 永井, 中田, 野口, 平岡, 藤村, 牧里, 三重野, 三井, 山田, 立岩(委任状), 神山(記録).

### ●報告事項・審議事項

0. 黙とうの後, 新旧理事より自己紹介が行われた.
1. 第9回大会の開催・運営について, 稲葉大会実行委員長から報告があった.
2. 山田研究委員長より①研究委員会の役割分担, ②大会運営, ③研究例会について報告がなされた. 大会運営については, 学会口座の開設の可能性, プログラム作成・郵送費用の出所の検討について意見が交わされた.
3. 稲葉編集委員長より, ①『福祉社会学研究』8号の発行, ②第4期編集委員会の取組と課題, ③その他(2重投稿の問題等)について報告がなされた.
4. 後藤学会賞選考委員長より, ①第1回学会賞受賞者・対象作品, ②選考理由, ③選考過程, ④今後の課題について報告がなされた. 選考における研究委員会との協力体制について, また, 受賞候補者の授賞資格を確認する方法に関して, 意見が交わされた.
5. 三重野庶務理事より, ①ホームページ委託管理について, 学会事務の委託・電子ジャーナル化とも関連させて今後検討すべきこと, ②学会大会における事務局と開催校の業務分担について今後検討すべきこと, ③ロゴマークの作成の可能性について今後検討すべきこと, が報告された.
6. 三重野庶務理事(平岡公一社会学系コンソーシアム評議員代理)より, 社会学系コンソーシアムの2010年度の活動と2011年度の活動予定について報告がなされた.
7. 三重野庶務理事より, 社会政策関連学会協議会報告学系コンソーシアムの活動について報告がなされた.
8. 三重野庶務理事より, 7月末日を目処にホームページ・サーバの移設が行われることが報告された.
9. 三重野庶務理事(岩間暁子選挙管理委員会委員長代理)より, 理事選挙開票結果の報告がなされた. 当選者は(あいうえお順), 安立清史・天田城介・鎮目真人・下夷美幸・武川正吾・田淵六郎・野口裕二・平岡公一・藤村正之・三重野卓. また, 開票作業に関連して, 作業を円滑化する投票用紙書式の検討と, 用紙に連記する人数の検討とが次期理事に申し送りされた.
10. 三重野庶務理事より, 新理事(選出理事・推薦理事)および役割分担案の決定について経過説明があり, 原案どおり承認され, 総会に提案・報告することが決まった. また, 天田新研究委員長・安立新編集委員長より, 委員会構成について提案があり, 承認された.
11. 三重野庶務理事より, 福祉社会学会2011年度活動方針の案が提案され, 承認された.
12. 白波瀬財務担当理事より, 2010年度の決算案と監査結果について説明があり決算案が承認された.
13. 白波瀬財務担当理事より, 2011年度の予算案について説明があり, 意見が交わされ, 研究委員会旅費について修正した上で予算案が承認された. また, 経費削減の方法について意見が交わされた.
14. 稲葉編集委員長より, JST 電子アーカイブ事業対象誌の募集について説明がなされ, 申請は総会で

審議することが提案され承認された。さらに、申請・採択された場合の著作権行使の許諾について意見が交わされた。

15. 三重野庶務理事より、第9回大会総会の運営が提案され、承認された。また、第11回大会の候補校を検討してゆくことが決定した。
16. 三重野庶務理事より、第10回大会の開催校を東北大学とすることが提案され、承認された。
17. 三重野庶務理事より、10周年記念事業の実施が提案され、承認された。
18. 新規入会者の承認と退会希望者の確認が行われた。
19. 次回理事会を12月18日（日）14時から開催することを決定した。

---

## ■新入会員など紹介

---

(WEB版では省略.)

【発行・編集】 福祉社会学会事務局